

赤穂線全線開通60周年 高校生が感謝の花束 市長「未来につながる鉄道」



1962年のJR赤穂線全線開通から60周年を迎えた1日、加里屋の播州赤穂駅で記念セレモニーがあり、日頃の通学で路線を利用する赤穂高校の生徒代表から駅長に感謝メッ

セイジと花束が贈られた。赤穂線は相生駅と東岡山駅を結ぶ路線。国鉄時代の1951年12月12日に相生―播州赤穂間で開業したのを皮切りに日生、伊部へと

順次西側へ延伸。60年前の9月1日に伊部―東岡山間が開業し、全線開通した。

改札前自由通路で行われたセレモニーでは牟礼正徳市長が「旧国鉄時代から安全安心な公共交通機関として日夜尽力いただいている」とねぎらい、「赤穂線が将来にわたって『未来につながる鉄道』として発展し、地域の牽引力となって」とあいさつした。

日頃、通学で利用している赤穂高校生を代表して生徒会役員4人

も参加し、宮本麻鈴さん(16)「たつの市」が「いつも登下校を見守って下さり、ありがとうございます。私たちも今まで以上の乗車マナーで利用していきたい」などと「感謝のこたば」を伝えた。船引駅長は「赤穂線が半世紀以上の月日を重ねられたのは乗客と地域の支援があつてこそ。こ

れからも播州赤穂の歴史とともに歩んでいきたい」と抱負を述べた。同日朝、備前福河駅では地域住民約20人が駅周辺のあせ道で色とりどりの手作り小旗を振り、通過する列車に向けて感謝の気持ちをアピールした。(写真はJR赤穂線全線開通60周年を祝った記念セレモニー)